

順天堂大学練馬病院外科だより

看護部：タスクシェアを目指した特定看護師の育成

当院では、タイムリーな医療の提供を目指して2021年より**特定行為研修**を行う指定研修機関として教育を開始しております。昨年度は3つのパッケージ【**術後麻酔管理領域**】、【**救急領域**】、【**外科系基本領域**】と、5つの特定行為区分の研修を行っています。研修は医師や薬剤師等の多職種が講師となり知識や技術を座学・演習を通じて指導しています。実習は自施設で行っており、外科や脳神経外科、救急・集中治療科、麻酔科などで実習を行い、技術だけではなく医師との思考の共有を行うことで相互理解を深めています。



創部ドレイン抜去の技術演習

研修を修了すると特定看護師として、手順書を使用した包括指示や医師の具体指示のもと、従来の看護業務に加え、**ドレイン抜去や動脈採血、レスピレーター管理、創部デブリードメント**など、より高度で専門的手技を看護師が行うことが可能となります。今後は、院内だけではなく、地域の皆様とも協力しながら、タイムリーで質の高い医療が提供できるよう教育を続けてまいります。

看護部 課長 貴田寛子

乳腺外科：乳癌に対する最近の新しい治療薬

乳癌の薬物療法は、この数年で飛躍的な進化を遂げています。乳癌の薬物治療は基本的に乳癌のサブタイプに合った薬剤が使われます。以前は「ホルモン療法」「抗がん剤」「抗HER2療法」という3つの大きな枠組みだけでしたが、現在は遺伝子のタイプやタンパク質の発現量を細かく調べ、それに合わせた「**分子標的薬**」や「**免疫チェックポイント阻害薬**」を使う精密医療が使われるようになり、予後の改善が期待されています。また従来の抗がん剤よりも効率よくがん細胞を攻撃できる「**抗体薬物複合体(ADC)**」も複数使えるようになりました。右記以外にも今後新しい治療薬が増える見込みです。使用できるかどうかを調べる遺伝子検査が必要なものもあり、体制を整える必要はありますが、選択肢が増えるのは有り難いことです。

薬剤名	特徴・適応
トルカブ (カピバセルチブ)	AKT阻害薬：PIK3CA/AKT1/ PTENの遺伝子変異があるホルモン受容体(HR)陽性・HER2陰性の転移・再発乳がんに対して使用
トロデルビ (サシズマブ ゴビテカン)	ADC：癌細胞表面のTROP-2というタンパク質に抗がん剤を結合。トリプルネガティブ転移・再発乳がんが対象
ダトロウエイ (ダトポタマブ デルクステカン)	ADC：TROP-2という標的と抗がん剤を結合。化学療法歴のあるHR陽性・HER2陰性の手術不能・再発乳がんが対象
イムルリオ (イムルネストラント)	国内初の経口選択的エストロゲン受容体分解薬(SERD)：従来の注射剤(フェソロデックス)と異なり内服薬で、ESR1遺伝子変異を持つHR陽性・HER2陰性の転移・再発乳がんに適応

乳腺外科 診療科長 木村聖美

